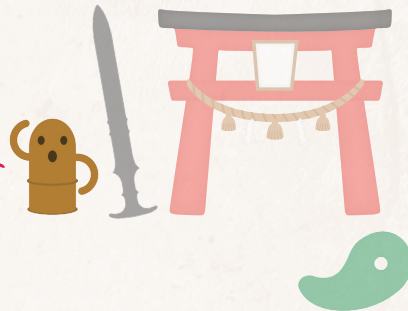


昔々の そお市

第36回



古代中国の貨幣

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

昭

和57年に岩川小学校の児童が中馬場通りで偶然採集したもので、県文化財課の鑑定により古代中国の貨幣であることが判明しました。

採集された貨幣は「貨泉」と呼ばれる円形方孔の銅銭で、古代中国の前漢と後漢の間に15年間のみ興った、新時代（BC 8 ～ AD 23年）の天鳳1年（AD 14）に铸造が始まったものです。また貨泉は新が滅亡した後の後漢時代にも使用され続け、トータルで铸造期間は54年とされています。採集された貨泉は一部が欠損していますが、最大径は2.35センチ、重量は1.2グラム、正面右側に「貨」、左側に「泉」と鑄出されています。現在はサビや汚れにより劣化していますが、当時の技術の高さがうかがえます。

貨泉が鑄造され始めた頃の日本は、弥生時代中期後半に該当します。福岡県糸島市志摩御床松原の砂丘で考古学者の中山平次郎博士により採集され、弥生土器に共存するものと認定されました。鑄造された年代がはっきりしているため、遺跡から出土した場合、共存する遺物の年代をより正確に検証することが可能になります。その後徐々に出土例が増え、弥生土器の時間的な

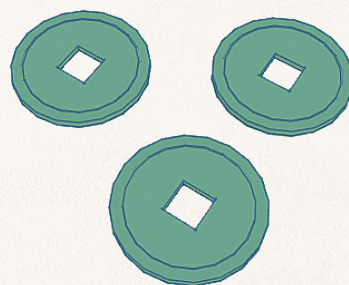
研究に大きな役割を果たしています。

弥生時代の日本には貨幣経済があったとは考えられず、中国から朝鮮半島を経由して、交易品や威信財、青銅器の材料として持ち込まれた可能性が考えられます。

岩川で採集された貨泉はとても貴重な発見であり、採集地点の調査が行われましたが、付近は宅地造成が進み昔の地形をとどめておらず、また弥生時代に該当する地層の残存もなく、詳しいことは分かりませんでした。弥生時代に交易品として持ち込まれたものか、後の世の古銭コレクターが落としてしまったものか、不思議なルーツを持つ遺物です。



古代中国の貨幣「貨泉」



※1 BC…紀元前
※2 AD…紀元後

【アクセス】

実物は大隅郷土館に展示
曾於市大隅町中之内9146番地

